

手づくり標識によるPR活動について (95)

米内沢署前田担当区事務所 山谷 紀男

1 課題を取り上げた背景

国有林野事業の経営状況が年々厳しくなっている中で、経営改善の道筋を探っているところでありますが、当署では、広報活動の一環として森吉山麓を事業区とする特徴を考慮し、平成元年度から「森林保全管理事業」により、現地に、標柱・標識を設置し、各種案内・目標等多方面に寄与しているのので、ご紹介し今後の課題等についてご指導を仰ぎたいと思っております。

わが署の管轄区域面積は、21,626HAで、その殆んどが森吉山系に属しています。

林分は、ブナを主体とした広葉樹林と、天然秋田スギにブナの混交林と、他に秋田スギ人工林に大別されます。

なお、事業実行区域が、製品生産事業・立木販売等を含め管轄区域全体にわたっており、林道の総延長も138Kmと広範囲になっております。

また、自然公園設定面積が全体の45%の9,800HAを占め、レクリエーションの森の設定面積も1,519HAとなっており、森吉山登山、太平湖等夏期の観光シーズンはもとより、森吉山スキー場の開設以来通年的に入山者が増加してきている状況であります。

以上のことから、次の5点に着目し、取り組んだものであります。

- (1) 経営改善には地域社会をはじめ、関係各方面、広くは国民各層の理解と協力を得ることが、先ず必要であるとの認識から、営林署の存在即ち国有林の存在をPRすること。

そのためには、現地案内標識が手短かにできると集約されたこと。

- (2) 業務の合間を利用しての作業のみでは、企画倒れの心配もあることから「森林保全管理事業」としてカウントし、計画的に取り組むこと。

- (3) 販売促進の極めて難しいネズコの小径丸太及びスギ若令間伐木などの有効活用を図ること。

- (4) 標柱を購入した場合1本当たり3万円以上するということであり、支出の節減を考慮したこと。
- (5) 職員の持っている技術を活かし、職場の活性化を図ること。

2 作製した標柱等の種類と数量

- (1) 国有林標柱 ----- 14本
- (2) 標識板 ----- 3枚
- (3) 林道標柱 ----- 37本
- (4) 歩道標柱 ----- 15本

3 今後の計画

- (1) 国有林標柱 ----- 11本
- (2) 林道標柱 ----- 林道新設時設置
- (3) 歩道標柱 ----- 逐次増設
- (4) 沢標柱 ----- 逐次設置

4 効果と反響

- (1) 事業実行上の各種現地案内に活かすことができること。
- (2) 林道標柱には、キロ数を表示したことから、旅行行程の目標として活かせること。
- (3) 関係事業体からも、さすが国有林と好評を得ている。
- (4) 地域住民等の入林、入山者からも、国有林への理解が深まっており、特に山菜採りの入林者からは、たいへん喜ばれている。

5 今後の課題

地域住民はじめ、入山者から沢名の標柱、林班界表示、歩道表示等の設置希望があることから、好ましい反響と受けとめ、更に創意工夫を凝らし、少しでもユニークな表現ができるよう、今後の計画に課題として含め、段階的にできるだけ要望に応じていく考えであります。



